

# グローバル出荷指数（平成22年基準） について（平成28年Ⅰ期（第1四半期））

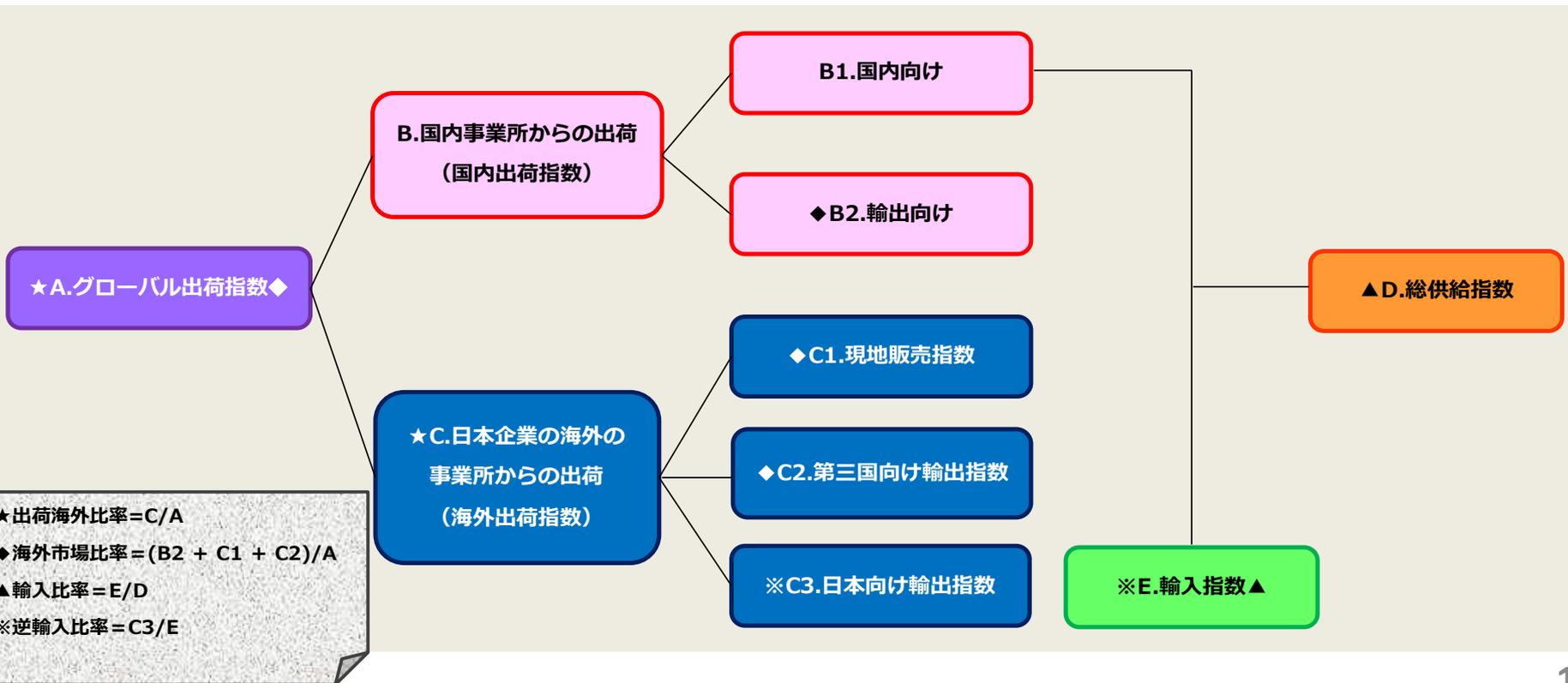
経済解析室  
平成28年7月



ミニ経済分析URL: <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

# グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



# 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	27年度	27年	28年	
		10～12月期	1～3月期	前期比
グローバル出荷指数	104.1	104.7	103.4	▲ 1.2
国内出荷指数	96.3	96.6	95.3	▲ 1.3
国内向け	95.8	96.3	94.4	▲ 2.0
輸出向け	98.7	97.5	98.2	0.7
海外出荷指数	128.8	130.5	128.9	▲ 1.2

注1) 各四半期の結果については季節調整済指数、27年度の結果については原指数。

注2) 27年度の結果については速報値（暫定値）である。

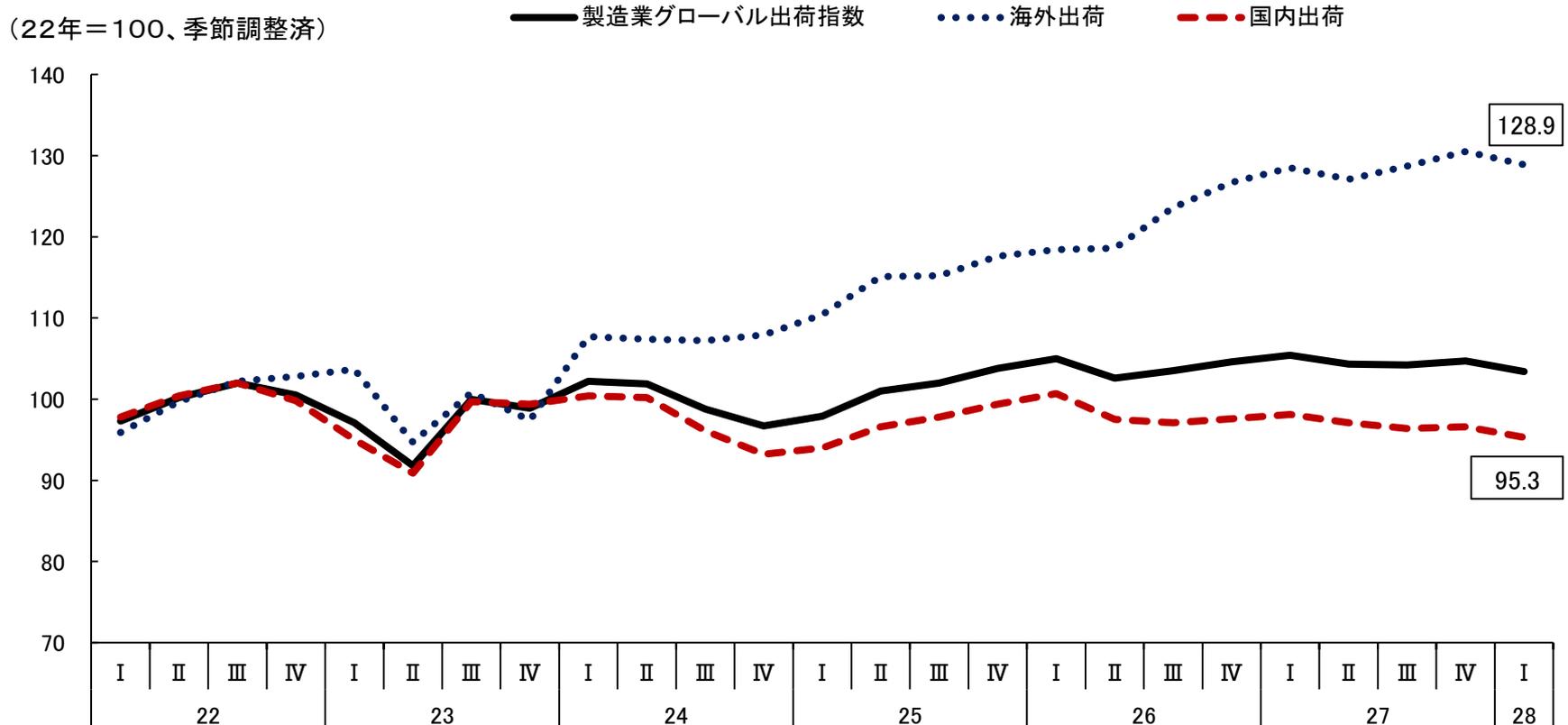
注3) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

# 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

28年Ⅰ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は103.4で、2期ぶりに前期比マイナス1.2%低下。

海外出荷指数は128.9で、3期ぶりに前期比マイナス1.2%低下。

国内出荷指数は95.3で、2期ぶりに前期比1.3%低下だが、26年Ⅱ期以降横ばいで推移。



## 製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

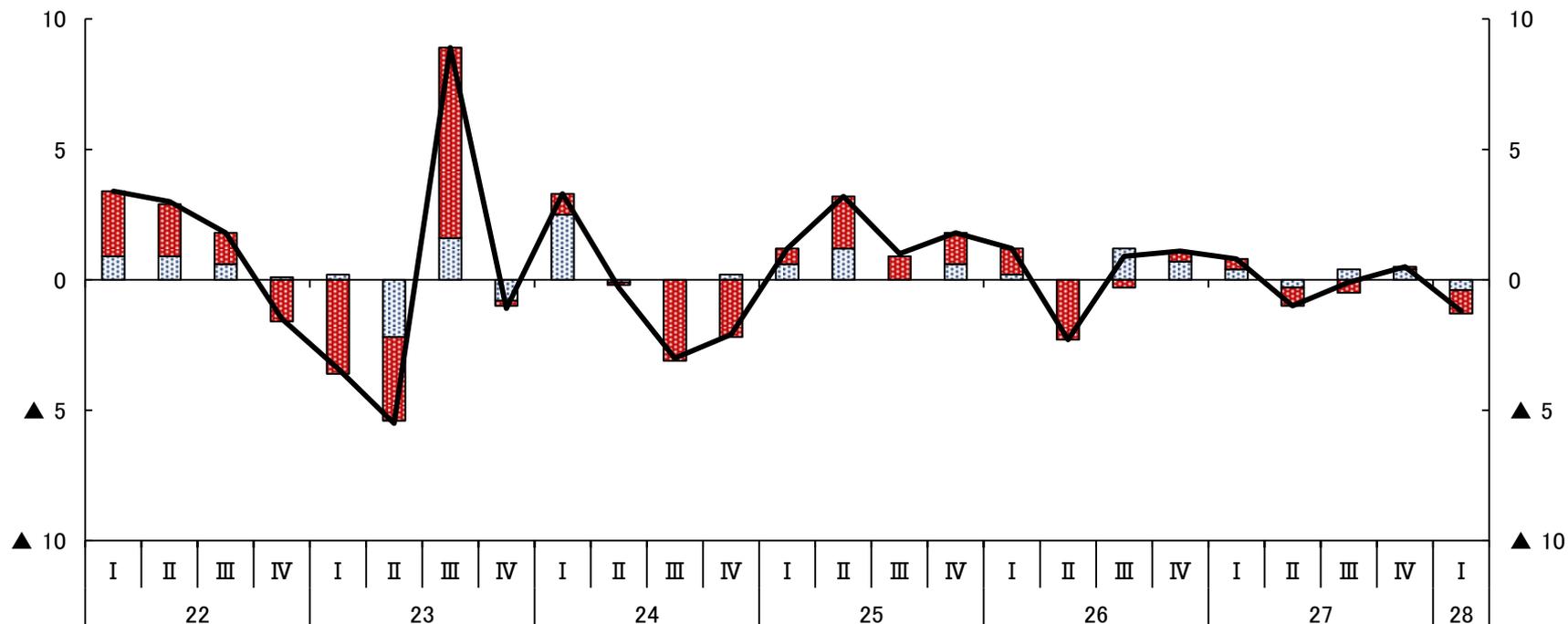
28年I期の製造業グローバル出荷指数は、前期比マイナス1.2%と2期ぶりの低下。海外出荷指数も、同マイナス1.2%低下。国内出荷指数も、同マイナス1.3%低下。

海外出荷は同マイナス0.4%低下寄与。国内出荷も2期ぶりに同マイナス0.9%低下寄与。

27年はグローバル出荷全体としては、あまり動きのない1年だった。

■ 国内出荷      ■ 海外出荷      — 製造業グローバル出荷指数

(22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント)

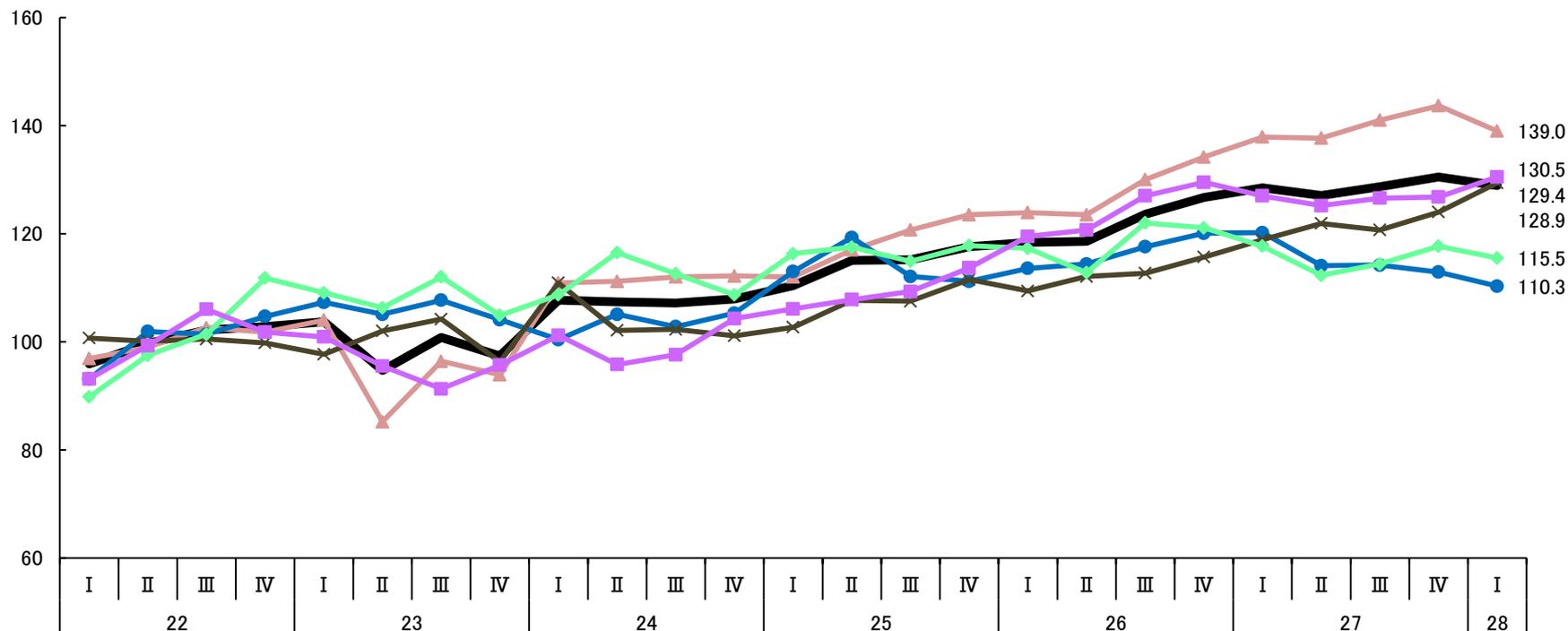


# 海外出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

主要業種のうち、前期比で上昇したのは、化学（前期比2.9%上昇）のみ。輸送機械工業（前期比マイナス3.3%低下）、電気機械工業（同マイナス2.3%低下）、はん用・生産用・業務用機械工業（同マイナス1.9%低下）は低下。ただ、27年を通じ、輸送機械工業の海外出荷は、他業種に比べ顕著に上昇。

■ 全業種   
 ▲ 輸送機械   
 ● 電気機械   
 × それ以外の業種計   
 ◆ はん用・生産用・業務用機械   
 ■ 化学

（22年=100、季節調整済）

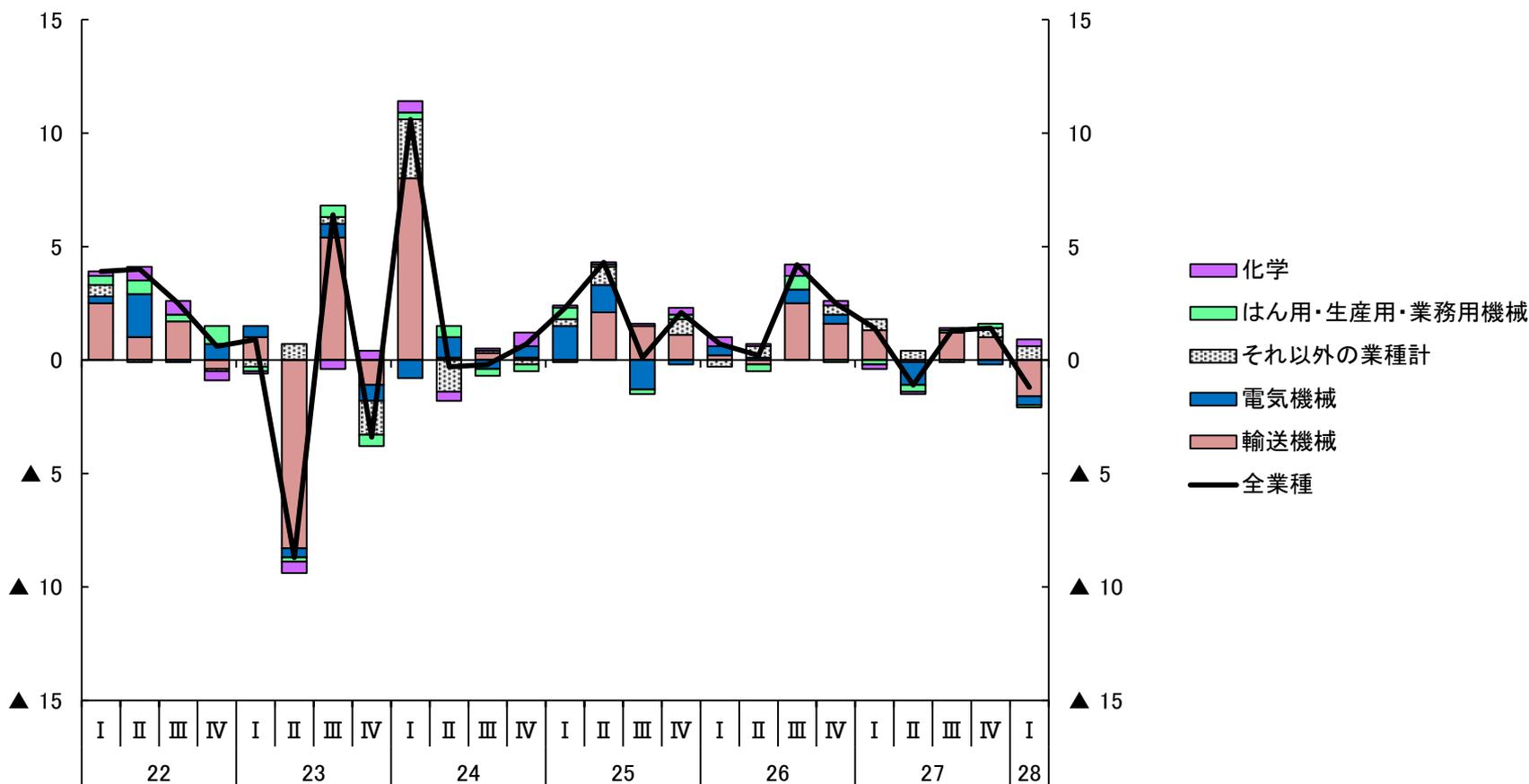


※業種の内容については、スライド21の「用語の説明」を参照のこと。

# 海外出荷指数の推移（前期比、業種別寄与度）

海外出荷全体の前期比マイナス1.2%に対し、輸送機械の前期比寄与が、3期ぶりにマイナス1.6%ポイントの低下寄与。また、電気機械工業も低下に寄与した。

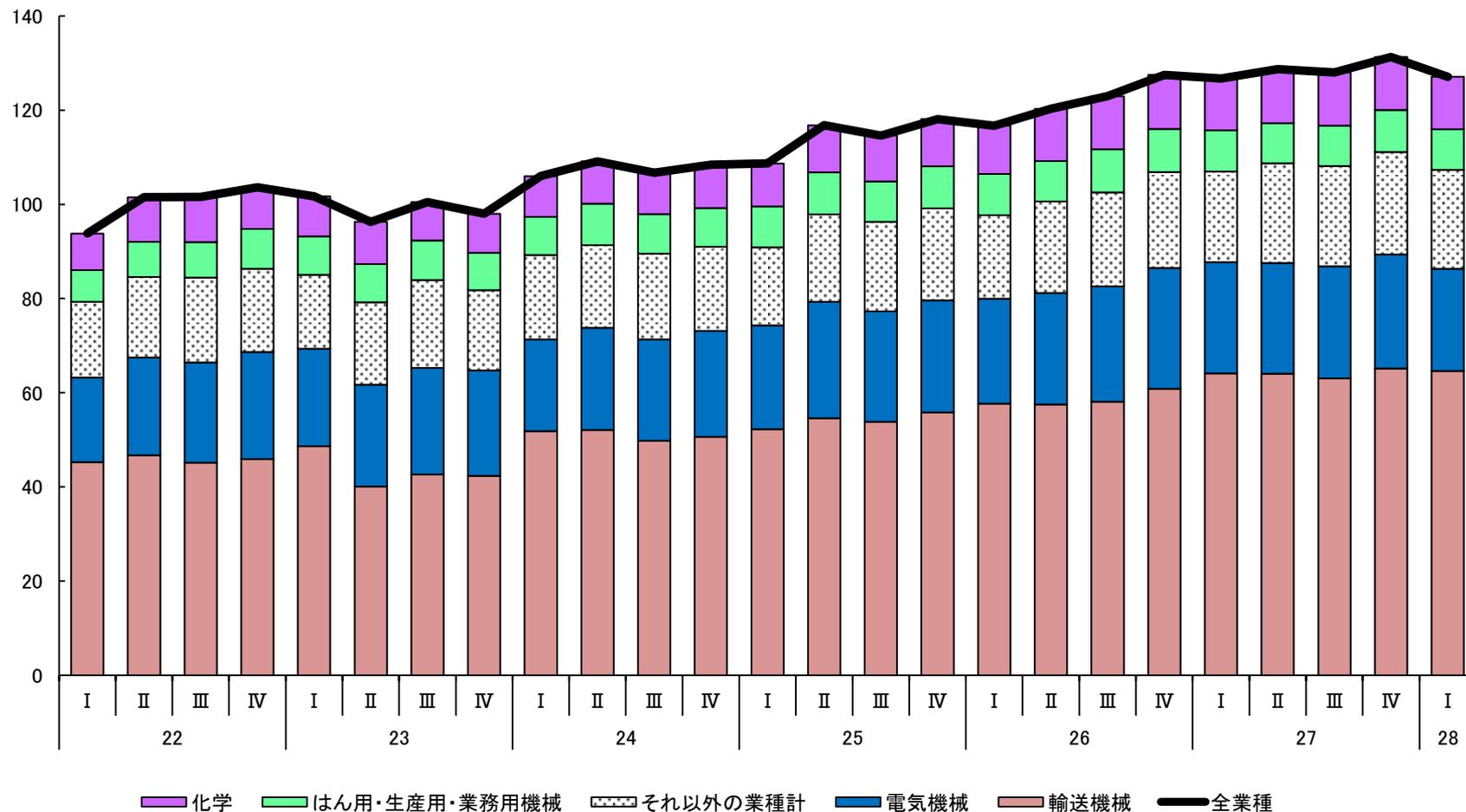
（22年=100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）



# 海外出荷指数（原指数）の推移（業種別）

28年I期の海外出荷指数においては、輸送機械の割合は50.8%。これに次ぐのが、電気機械の17.1%だが、構成比が縮小していた。

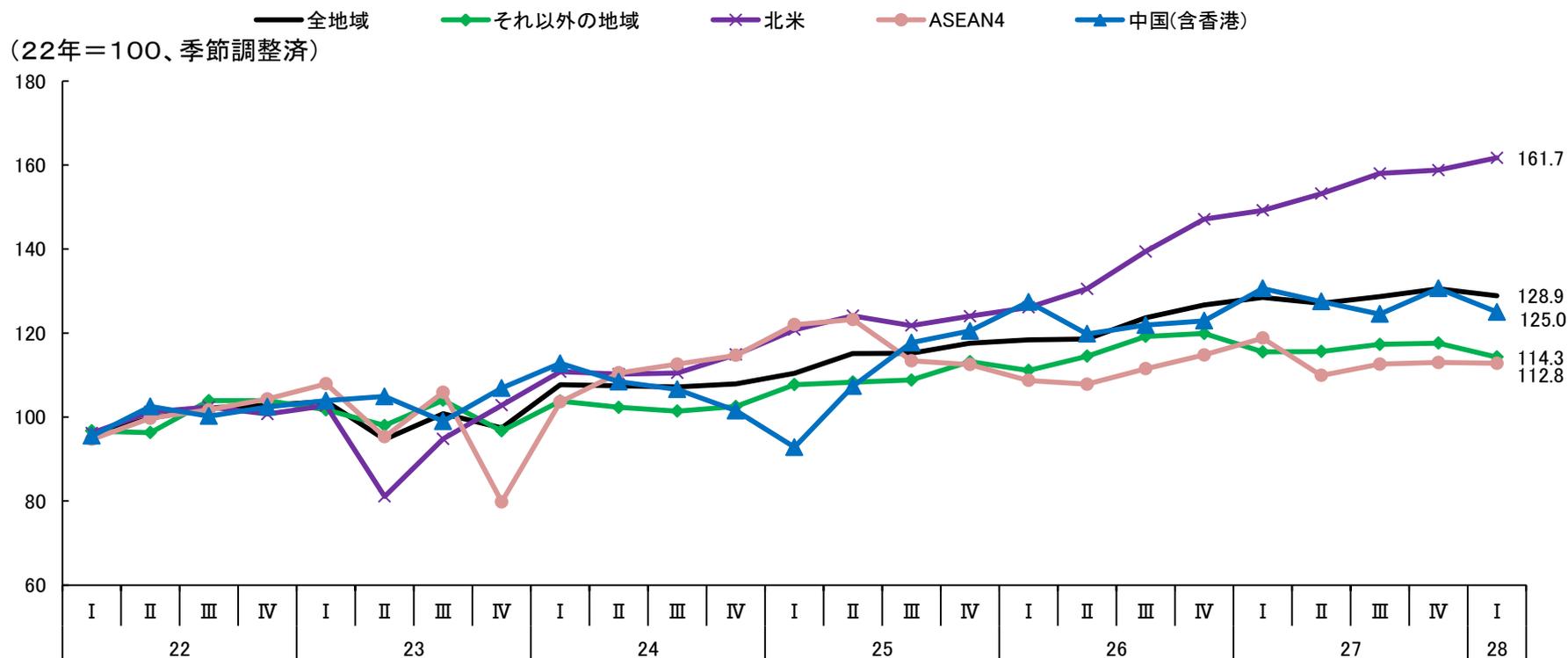
(22年=100)



# 地域別海外出荷指数（季節調整済）の推移

28年I期の海外出荷指数の地域別では、北米（前期比1.8%上昇）が上昇した一方、中国（同マイナス4.3%低下）、それ以外の地域（同マイナス2.8%低下）の低下が目立つ。ASEAN4は横ばい。

ここ2年ほどの期間、指数が明らかに上昇していたのは、北米だけ。



※海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数（財務省貿易統計）を用いて主要地域別のグローバル出荷指数（季節調整済）を算出。

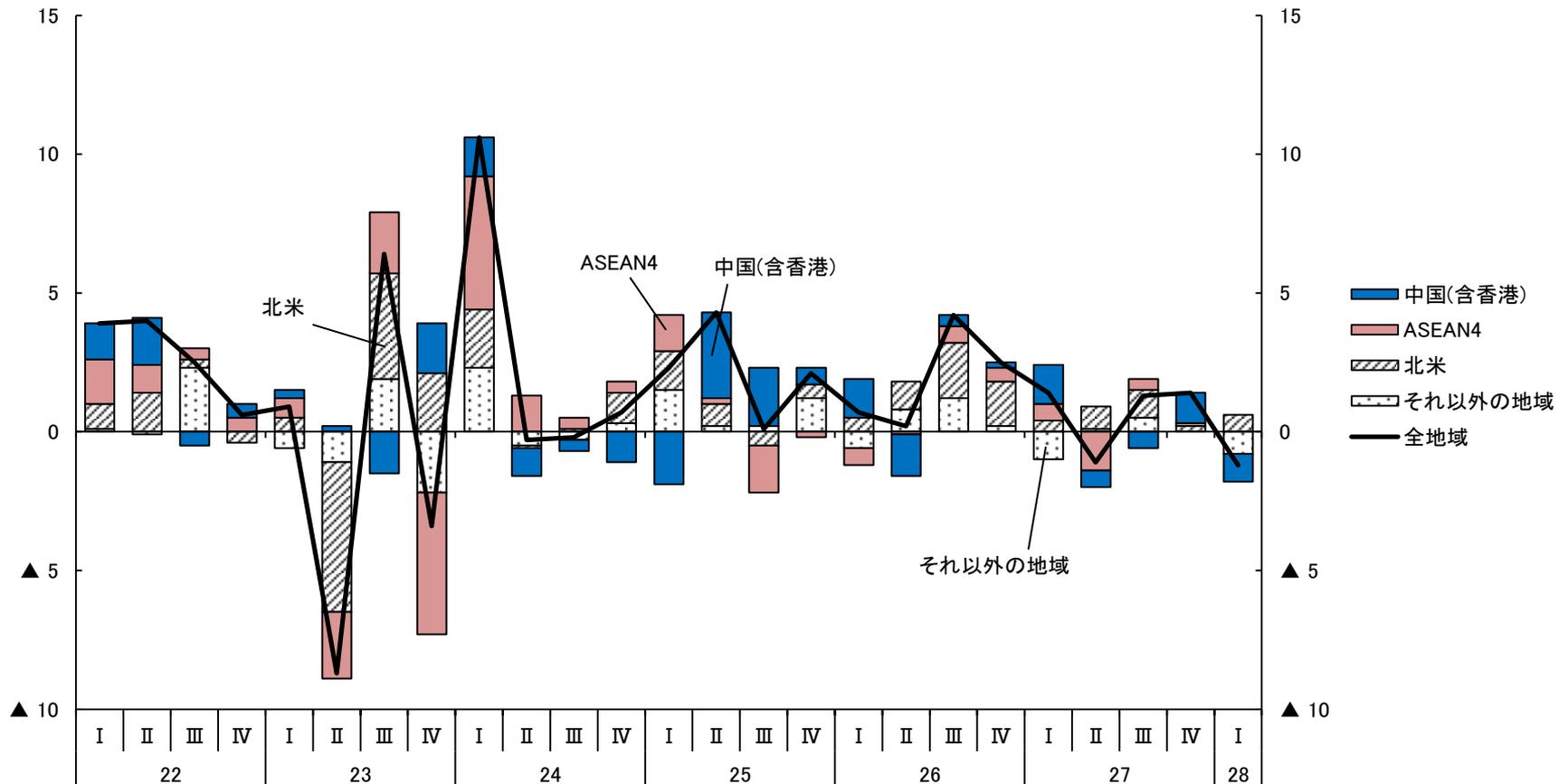
※地域の内容については、スライド21の「用語の説明」を参照のこと。

# 海外出荷指数の推移（前期比、地域別寄与度）

地域別海外出荷指数の前期比がマイナスで、ASEANは横ばい寄与だが、中国が2期ぶりのマイナス寄与。

北米は10期連続の前期比プラス寄与で、そのプラス寄与幅も拡大。

（22年＝100、季節調整済、前期比、%、%ポイント）

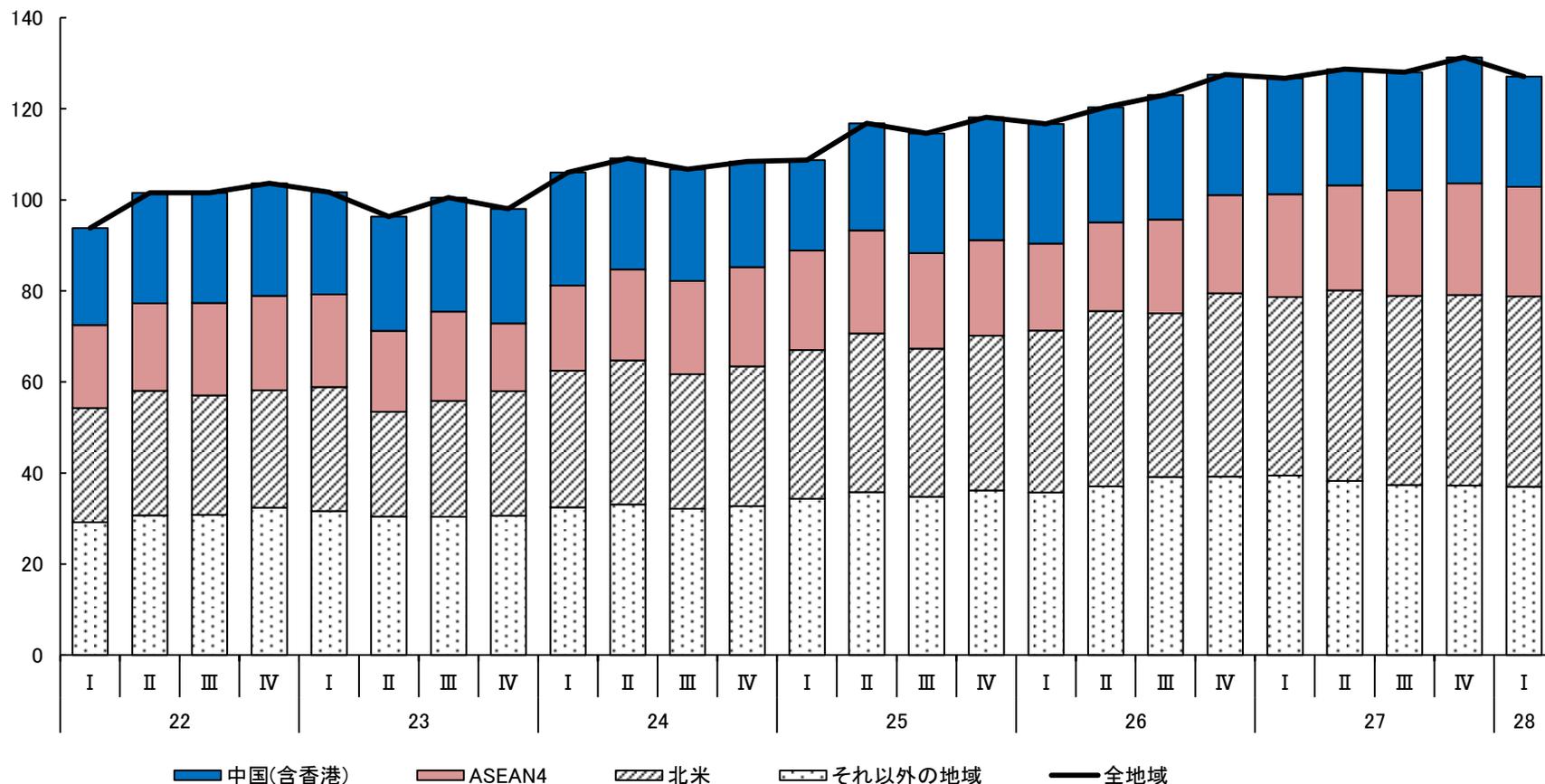


# 地域別海外出荷指数（原指数）の推移

28年I期の地域別の内訳をみると、北米の割合が32.9%で、これに次ぐのが中国(含香港)で19.1%。

引き続き、北米からの海外出荷のウェイトが大きい。また、中国の構成比が低下。

(22年=100)



# 製造業グローバル出荷指数（原指数）の推移（総括表）

	27年度	27年	28年	
		1～3月期	1～3月期	前年同期比
グローバル出荷指数	104.1	106.5	104.4	▲ 2.0
国内出荷指数	96.3	100.1	97.2	▲ 2.9
国内向け	95.8	99.7	97.2	▲ 2.5
輸出向け	98.7	101.7	97.4	▲ 4.2
海外出荷指数	128.8	126.7	127.1	0.3
自国向け	132.3	129.5	131.5	1.5
日本向け	121.8	122.5	114.0	▲ 6.9
第三国向け	132.3	130.3	132.3	1.5
海外出荷指数	128.8	126.7	127.1	0.3
中国(含香港)	126.9	125.6	119.9	▲ 4.5
ASEAN4	112.2	116.1	110.6	▲ 4.7
北米	157.9	150.0	162.2	8.1
それ以外の地域	117.5	118.5	114.5	▲ 3.4

注1) 27年度の結果については速報値（暫定値）である。

注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

## 28年I期のグローバル化比率

28年I期の製造業出荷海外比率は29.2%となった。

28年I期の海外市場比率は40.9%となった。

28年I期の逆輸入比率は23.4%となった。

注) 製造業出荷海外比率：日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人の活動の比率

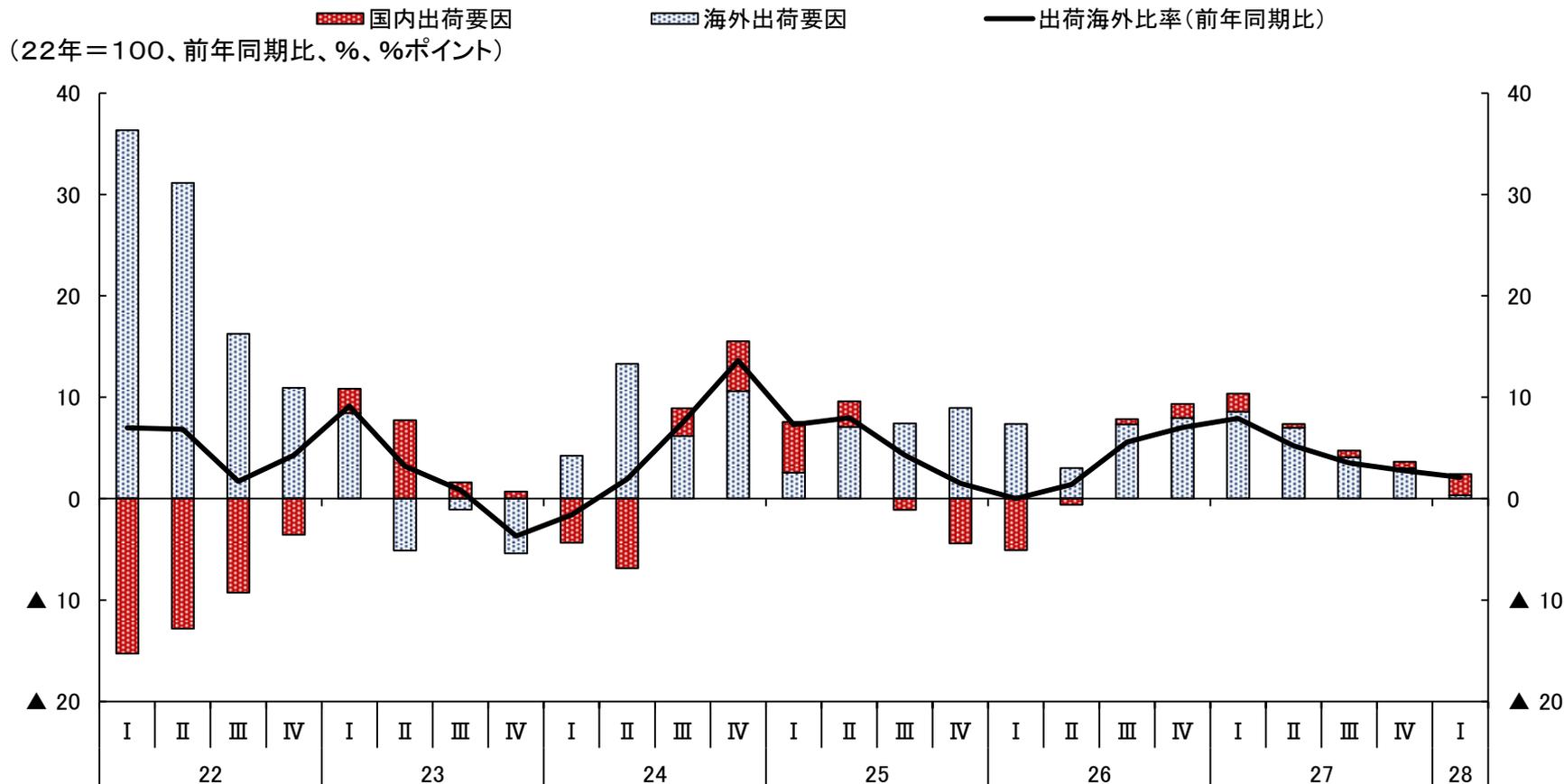
海外市場比率：グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合

逆輸入比率：日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

	製造業計	輸送機械	はん用・生産用・業務用機械	電気機械	化学	それ以外の業種計
出荷海外比率	29.2%	47.7%	17.6%	30.4%	26.5%	14.9%
海外市場比率	40.9%	59.4%	34.2%	40.7%	40.0%	25.2%
逆輸入比率	23.4%	63.0%	27.0%	41.4%	9.6%	12.1%

# 製造業出荷海外比率の変動要因分解

製造業出荷海外比率の前年同期比の上昇に対し、海外出荷の増加である「海外出荷要因」は若干のプラス寄与。とはいえ、28年I期の出荷海外比率の上昇は、大部分が国内出荷の減少である「国内出荷要因」によるもの。



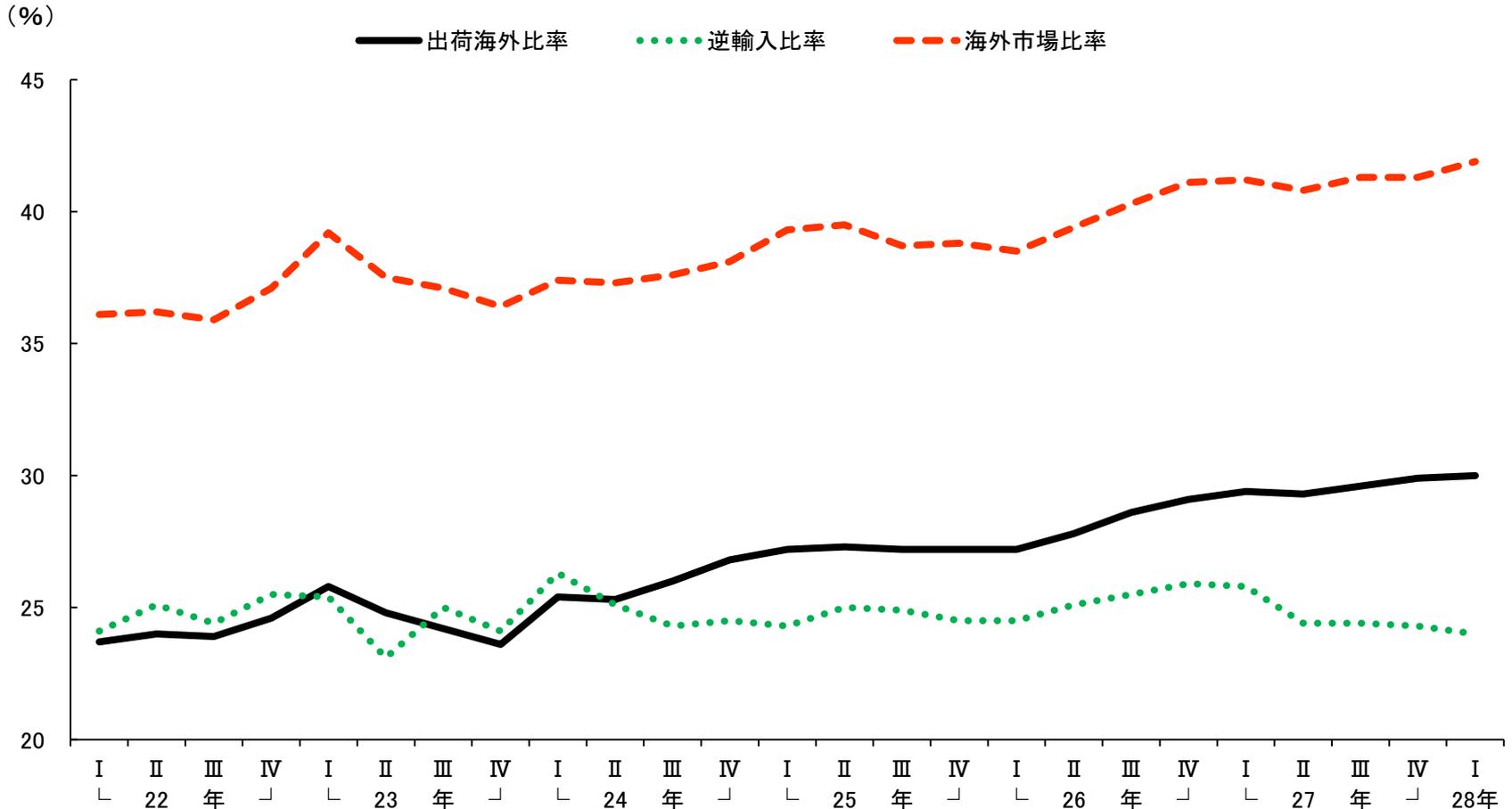
# グローバル化比率の季節調整値

---

- 出荷海外比率等のグローバル化比率にも、季節変動が存在しているため、各期の数値の前期との単純比較が出来ない。
- そこで、グローバル化比率自体に季節調整を施す試みを実施。
- 季節調整の施された数値自体には、意味はなく、あくまで過去の各期のレベルとの比較に意味がある。
- よって、グローバル化比率の数値自体は、季節調整前の数値を参照。28年 I 期分は、スライド12の数値。

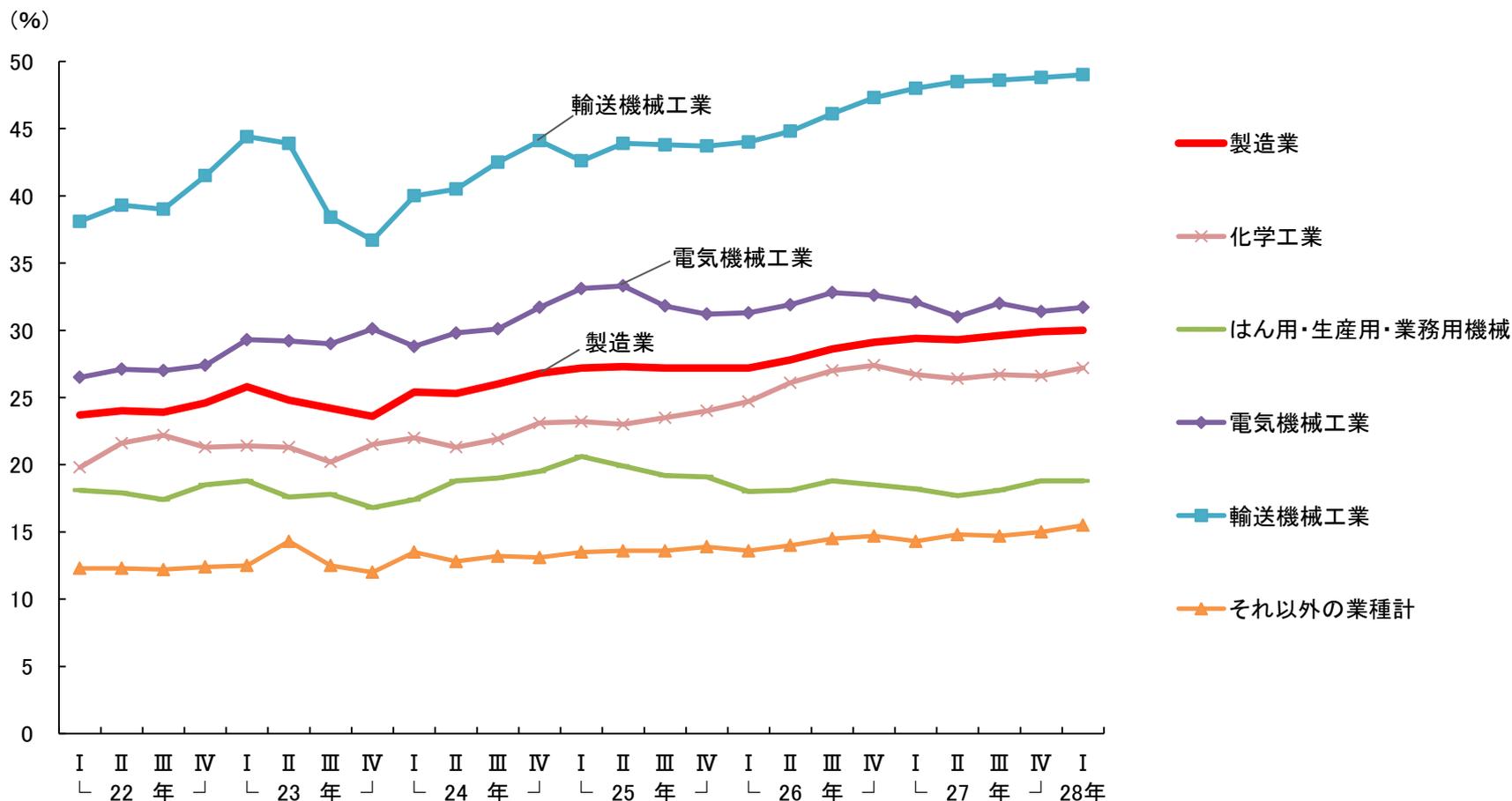
# グローバル化比率（季節調整済）の推移

- 28年I期の製造業出荷海外比率（季節調整済）は過去最高。
- 28年I期の海外市場比率（季節調整済）は過去最高。
- 28年I期の逆輸入比率（季節調整済）は27年II期以降、低下傾向。



# 業種別製造業出荷海外比率（季節調整済）の推移

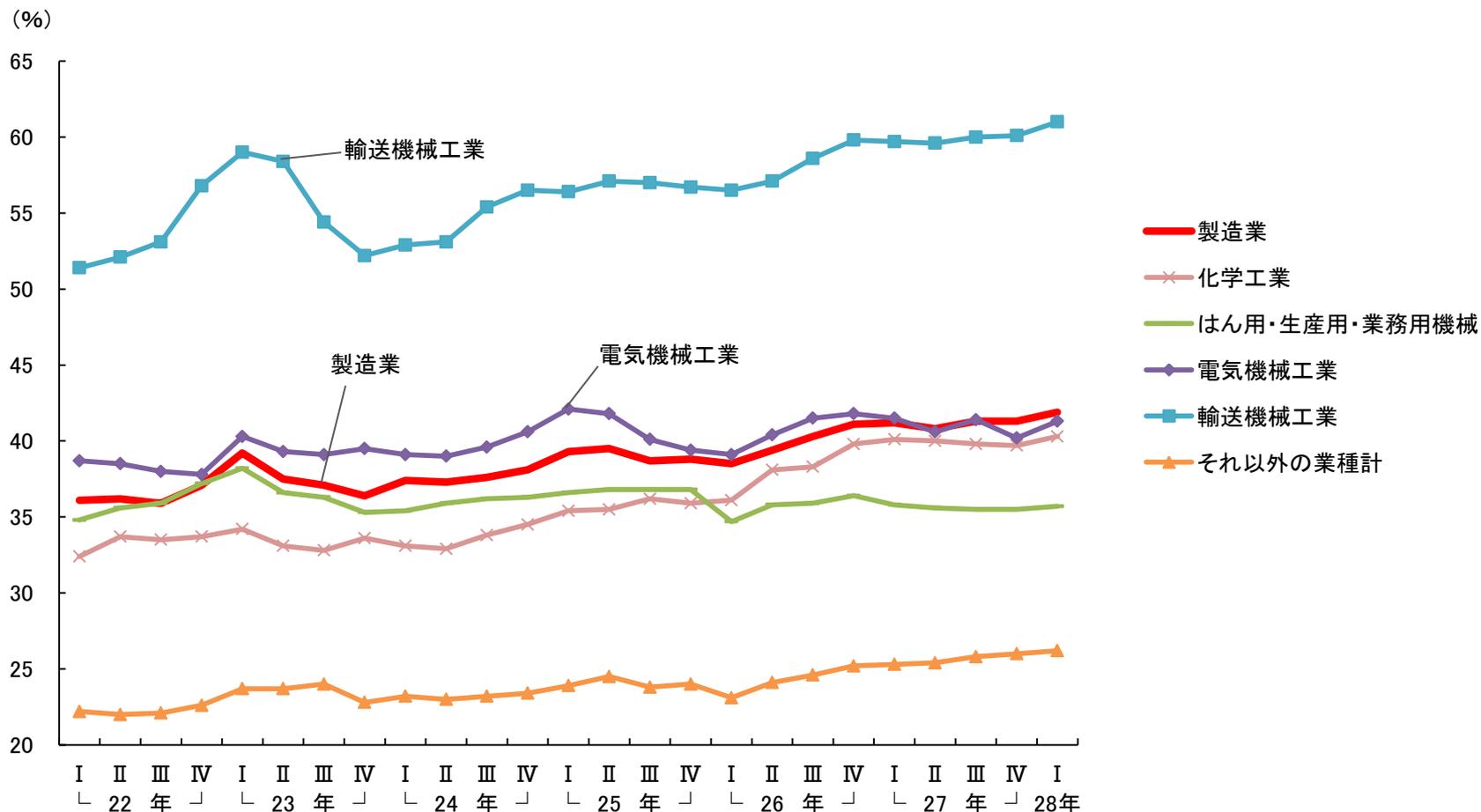
28年I期の業種別の出荷海外比率では、全12業種のうち9業種が前期比上昇。主要業種で出荷海外比率が高いのは、輸送機械と電気機械。輸送機械では比率が緩やかに上昇して過去最高。電気機械では、この3年ほど、非常に緩やかに低下している。



# 海外市場比率（季節調整済）の推移

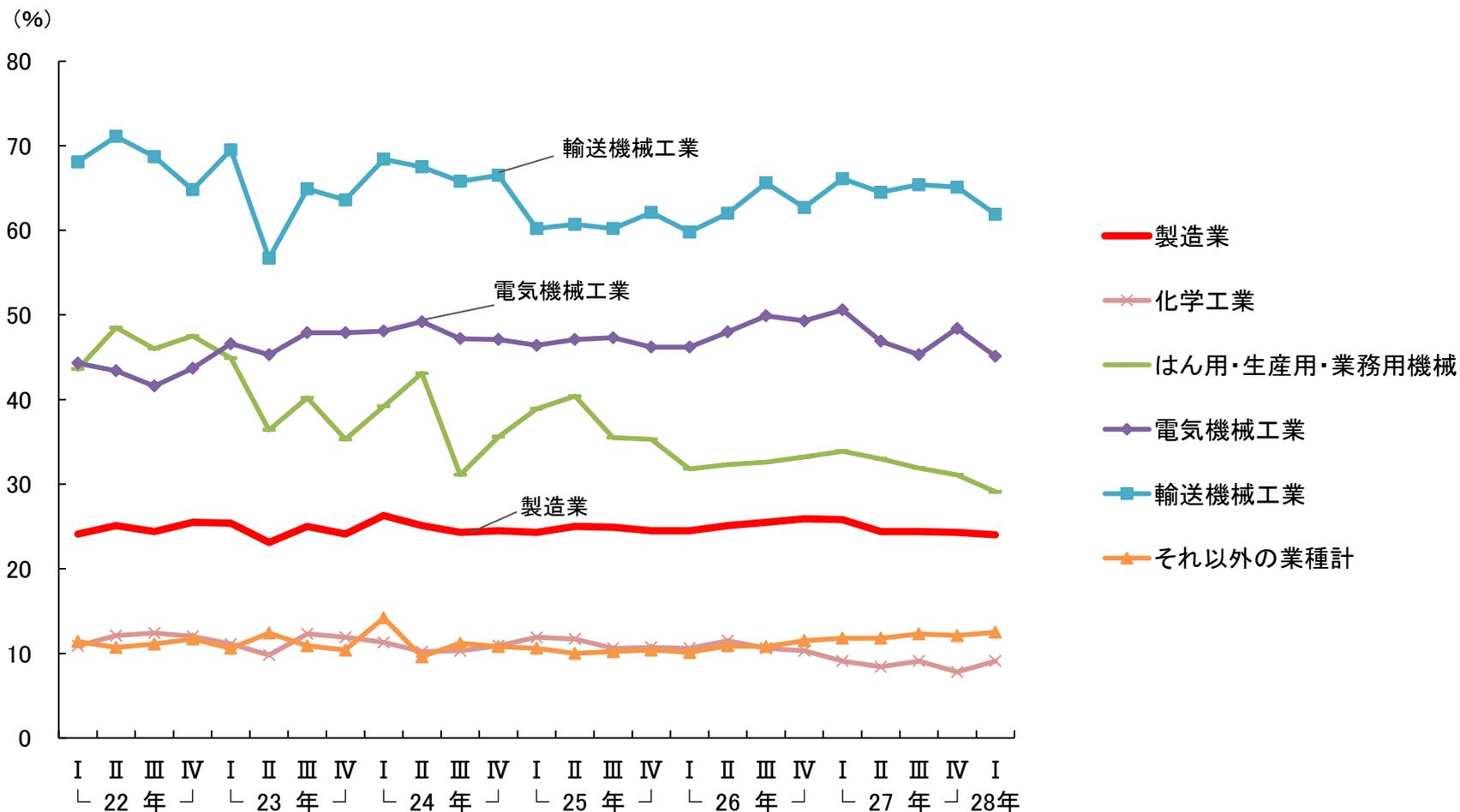
28年I期の業種別の海外市場比率では、全12業種のうち10業種が前期比上昇、2業種が低下。海外市場比率が、特に高いのは、輸送機械で比率上昇が継続。水準は低いものの化学工業の比率上昇。

電気機械やはん用・生産用・業務用機械工業では、比率が横ばいで推移。



# 逆輸入比率（季節調整済）の推移

28年I期の業種別の逆輸入比率（季節調整済）では、全12業種のうち5業種が前期比上昇、7業種が低下。逆輸入比率が高い輸送機械の逆輸入比率は、顕著に低下。電気機械も同様。全体に、ここ2年ほど、逆輸入比率は緩やかに低下。



## 28年I期のグローバル出荷指数のまとめ

---

- 28年I期のグローバル出荷指数は、前期比マイナス1.2%低下、前年同期比もマイナス2.0%低下。
- 全体の低下の主因は国内出荷だが、海外出荷も3期ぶりに前期比マイナス1.2%低下、前年同期比0.3%上昇に留まる。
- 海外出荷の低下は、業種的には輸送機械工業、地域的には中国の出荷の低下による。
- グローバル化比率においては、出荷海外比率も、海外市場比率も過去最高。
- ただ、海外出荷においては、日本向けが前年同期比マイナス6.9%と顕著に低下。このため、逆輸入比率では、多くの業種で低下。
- 逆輸入比率は、この1年、非常に緩やかではあるが、低下してきている。

# 注意点

---

- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることなどに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、「産業活動分析」や「ミニ経済分析」等の方法で過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。
- 年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。

# 用語の説明

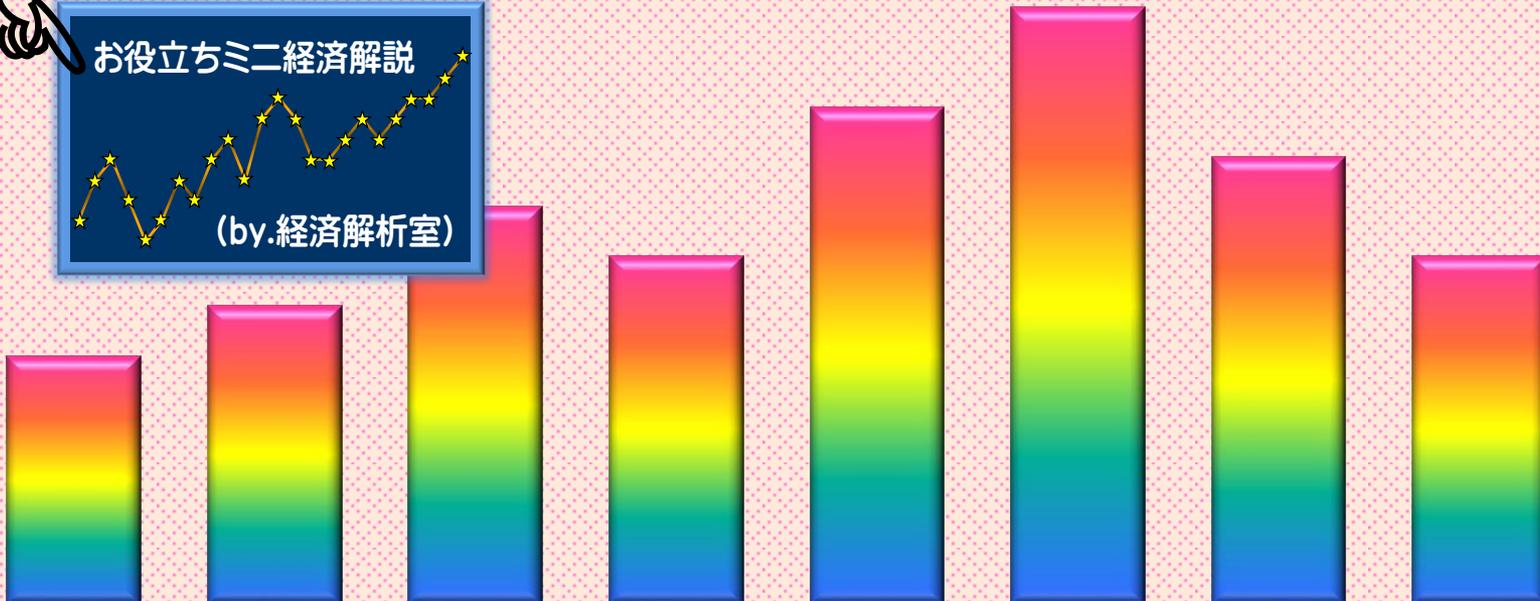
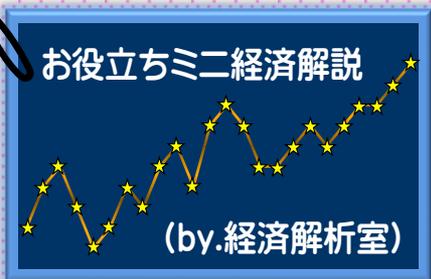
---

- グローバル出荷指数における電気機械工業は、鉱工業指数における、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。
- 「それ以外の業種計」とは、次の8業種を組み合わせたものである。  
「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」
- 「それ以外の地域」とは、次の4地域を組み合わせたものである。  
「NIEs3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」

# こちら是非御覧下さい！

◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります

◎ お役立ちミニ経済解説：総合ポータルサイトです



お役立ちミニ経済解説、経済分析、動きで見る経済指標、